

特報

日本財団のボランティア基金に
“ほほえみの会”からパソコンを申請していましたが、これが認められました。
富士通のデスクトップパソコンで32、5万円の
32万円の補助が出ます。早速購入のための手続き
に入ります。当面、代表の家に置きこの会報の発行、
また他の団体との情報交換の通信に使いたいと思
います。パソコン通信に加入している方はお知らせく
ださい。

また、「ほほえみの会」発足からまもなく1年にな
ろうとしています。そこで会の規約により
総会を6月9日(日)12時から14時まで
開くことにしました。
この1年の報告とともに先生方に病気や骨髄移植に
関する講演もお願いする予定です。
是非出席をお願いします。

< 第10回ほほえみの会 >

今回は新規加入の方が多く、医師や看護婦さんも含め10数人
が参加されました。
入院されたばかりの方は突然の病気にショックも大きいと思いま
すが一緒にがんばりましょう。

入院された方は早速化学療法に入ったようですが、2年ほど前
からは最初から吐き気止めを使うということで、食欲もあまり落
ちず以前に比べるとずいぶん楽になっているようです。

小学校5年の女の子、「先生は“告知します”という。本人に良く理解させ、何事も本人の判断を重視していきたい」という。

「先生から病名を聞いたときにはなにも手につかない状態だった。夫婦だけで乗り越えるのは大変で親の協力も必要。また子供はわがままになって困る。あまり甘えを許すのは良くないと思い健康な時と同じようにしている。周りの子供が明るいので助けられる」と明るく積極的に生きていくことを話されました。

小学校1年生の妹から骨髄移植をして4日目の子。妹も退院し今のところ本人も元気、移植は順調なものの薬を飲んでも吐いてしまう。食事食べられない。これからが心配。

末梢血幹細胞移植をし1ヶ月後に退院した。退院はうれしいものの、家にいるとかえって不安もある。再発も心配、100日間は注意したい。

なぜか退院できるといったら本人暴れて騒ぐ。点滴をはずすのもいやがった。退院したら今までのようにおもちゃを買ってあげないといったのがいけなかったのか、理由がわからない。

大久保先生も首を傾げるケースだというのが、今まで自分を支えてくれていた状況から見捨てられる不安、また院内に友達も多くでき、外泊の時にはB1に「ただいま」と言って戻ってきており、病院と家の関係がひっくり返ったのかもしれないという。

次回のほほえみの会は

5月12日(日)12時から です

ほほえみの会 代表 池田恵一